



# 善正寺だより

掲示板法話

## 亡き人のためではない

### 我一人がための法事である



善正寺のホームページ上にブログを開設してから、7年。先日、思いがけずアメリカに住む日本人女性からブログを見たというメールが届きました。その女性の亡き母親の中陰法要での一こまを綴ったブログが目にとまったのです。国際結婚してアメリカのシアトルに在住している女性からのメールでした。

二人姉妹のうちの姉さんが嫁ぎ先の大姑さんや両親を看取った後、実家の両親の介護や葬儀を一手に引き受けて下さいましたので、中陰法要の場で姉さんをねぎらいましたら、「親のための法事ではなく、自分自身が仏さまの教えに遇うご縁だと思おうようになりました」と心境の変化を語ってくれました。そこで「亡き人のためではなく、我一人がための仏事である」という心境の変化を「素晴らしいことだ」とほめたたえる趣旨のブログを、匿名性に配慮して固有名詞を使わず書いたのです。それをアメリカ在住の妹さんが見つけて、感謝の気持ちを伝えてこられたのです。

更に、アメリカ人のご主人がミニ仏壇を購入して安置され、ダウンロードした正信偈をお勤めしているとのことです。何度も交わすメールの中でおぼろげなことは、この姉妹が子供の頃忙しい母親の分まで面倒見てもらったおばあちゃんや仏法を喜ぶ人だったらしくその影響をしっかりと受けていることです。

「自分や他人はだませても、仏さまはだませないよ。見てござる、聞いてござる。知ってござるよ」とおばあちゃんから聞いて育ったそうです。それを今も忘れず、仏様の教えを心の支えにして「ありがたい」「おかげさま」の心をモットーにして生活しています。すゝめメールの中に書かれていました。

本願念仏の教えに遇ったおばあちゃんや言葉が、時代を超えて国境を超えて、今も生きて働いているのですね。まさに「人によって法は伝わる。法によって人は育てられる」と言われる通りだな、とうなずかされます。

戦後七十年目、お盆の季節が巡ってきました。

〒:512-0902  
三重県四日市市  
小杉町1014  
浄土真宗  
本願寺派  
善正寺  
☎:0593-31-1670  
☎:0593-32-0733

### ☆行事ご案内☆

## 秋季永代経

8月22日(土)午後1時半・夜7時半

23日(日)午後1時半

講師:足利孝之先生(尼崎市)



◇絵手紙教室 9月8日(火)午前10時 庫裏食堂で

師:川崎光子先生。お誘い合わせてお気軽にご参加下さい!

◇キッズサンガ 8/1(土)午後4時よりお経ゲーム。

鐘つきは毎夕5時、年中無休、お友達を誘って来てね

◇三重組コーラス 8/3(月)西勝寺様で練習、

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。1年分の寺報が閲覧。毎日更新のブログ「住職と坊守のつれづれ日記」が大好評。寺の日常を公開、開設丸7年で18万訪問達成!(開始平成18年8月)、一日平均100人程の訪問、コメント、悩み相談、大歓迎!即返信します。

◇『一縁会テレホン法話』059・354・1454へ電話

※親鸞聖人750回大遠忌法要平成28年5月15日(日)午後ご法要までいよいよ9か月に迫り、ご協力よろしく!

※お稚児さん大募集!参加費5千円、詳細お申込みは寺まで生涯のよき思い出、仏縁です。お誘い合わせてご参加下さい!

◇小杉仏教会追悼法要9月20日(日)講師朝枝暁範師(広島)

◇新納骨堂:後継者のない方、お墓でお困りの方ご相談下さい



「人間に生まれて、真理の声を聞かずに終われば、生まれてこなかったと同じだ」(安田理深師)という警鐘をわが身の上で聞かねばなりません。それと同時に、我々高齢世代が昔のご先祖方のように、もつともつと、子や孫の世代に仏法を伝える努力をしなければならぬと改めて感じたことがあります。

### 今月の写真アラカルト



アメリカから一時帰国の親子も鐘つき

## 坊守スケッチ

## 「愛を積むひと」

話題の映画『愛を積む人』を見た。最近では一番感動した映画。原作はエドワード・ムーニー・Jr著『石を積む人』。簡単にあらすじを紹介しよう。

東京で町工場の経営に失敗した夫婦（佐藤浩市と樋口可南子）は、北海道へ移住することを決意。仕事もなく手持ち無沙汰な夫に、妻は家の周囲に石積みをして塀を作ること提案。アルバイトを雇って嫌々ながら仕事を始めた夫。アルバイトの手引きで盗難事件が発生。事件がきっかけでアルバイトの彼女とも知り合う。妻は夫には打ち明けられない重い病気があった。東京の倒産騒ぎの心労が原因で、心臓移植しか完治できない心臓病を患っていた。いつ訪れるかもしれない心筋梗塞の発作。死の恐怖と向き合う日々。石積みした塀の完成をおそらく見ることもないと覚悟した妻は、秘かに手紙を書き始めた。アルバイトの彼女に「自分にもしものことがあったら、夫に手渡しして欲しい」と頼む。その日は突然やってきた。急死した妻からの手紙を涙しながら夫は読む。しかし手紙は一通ではなかった。古いアルバム、筆筒の引き出し、死後夫が見つけると予想された所に、何通も手紙を残した。夫婦には東京に残した一人娘がいた。不倫関係に失敗した娘を夫は絶縁。夫の頑固で閉ざされた心を開いて、娘を



許すことを妻は願っていた。父娘は妻の手紙がきっかけで縊りを戻した。この映画は私達団塊世代に多くのことを問いかける。

近頃高齢者の間では『終活ブーム』。親のモノは子供にはゴミ同然。遺産さえ残せばいい。思い出し繋がる一切のモノを処分する風潮。子供には迷惑はかけたくないから、自分の手で片づける。果たしてそれでいいのだろうか？

先立つ人がしっかりした『石積み』をしてくれたからこそ、残された人達も安心してその上に『人生の石積み』ができるのではないかと？また先立つ人は、後の人が生き易いように手立てを尽くす優しさも必要ではないか？

「前に生まれんものは後を導き、後に生まれん人は前を訪らへ」という言葉が、私の心にずしんと届く。

私も残された人生、しっかりとした石積ができるようになりたい。

## お知らせ

住職・総代さん、行事さんらが分担して次の日程で平成27年度門信徒会費のご依頼に巡回します。ご協力よろしくお願ひします。ご都合の悪い方はあらかじめ寺までご連絡下さい。

※8月4・5・6日夕方四日市市街地

※8月8・9日午前 近隣住宅地

※8月上旬 盆小杉・坂部(行事巡回)

## ☆若院夫婦の『育自な毎日』その10

先日、長男亮爾の幼稚園の七夕参観へ行ってきました。六月にあった初めての参観日には前日から発熱して欠席したので今回はビデオを片手に張り切って行ってきました。

園に着くと長男は笑顔で迎えてくれました。まずは朝の体操です。みんな裸足で薄着になって色帽子を被って園庭に駆け出していきます。「トント前！」という掛け声に合わせて組毎に並んだら乾布摩擦、お歌と続きます。小さい頃から人前でお念仏して歌うことに慣れている長男には、すんなりと覚えられるようで、親の欲目でしょうが、同じ組のどの子よりもリズム感良く動いていたように感じました。

普段は見られない園での様子を垣間見て、ちゃんと集団生活を送れていることに安心しました。ほんの二ヶ月前までは嫌がって泣いていたのが嘘のようです。お片付けやお着替えが上手になり、お友だちが増え、長男は短期間でずいぶん成長したようです。お絵描きなどにも集中して取り組むようになりました。でも、まだまだ三才の甘えん坊は参観終了後、先に帰ろうとする私を泣いて引き止めたのでした。早く大きくなって欲しいような、まだまだ甘えん坊のまままでいて欲しいような、親として複雑な気持ちで帰宅しました。(潤爾&由佳)



## ホットニュース

☆『絵手紙教室』2回目が7月14日午前10時より庫裏食堂で開催。終了後はお茶会。指導は日本絵手紙協会公認講師川崎光子先生。絵手紙は今や全国的ブーム。私が参加してから、孫もお絵かきが得意になりました。あなたもお世話になった方にお礼の気持ちをお届けませんか？認知症予防にもなります。原則的に毎月第2火曜日の午前10時。是非ご参加下さい。

☆来年5月15日のご法要で、稚児行列が本堂に入ってくるまでの時間、皆様と共に仏教讃歌を歌います。楽譜・CDも作成。女性声楽家をお招きして一緒に歌う形をとります。あなたも是非ご参加下さい。

☆各ご門徒様宅の塀に、稚児募集のポスター掲示をお願いしました。

## カンパありがとう

柴田美津代様、村田すみ子様、矢田たず様、内田宣撫子様、他匿名様よりお志、切手等を頂戴しました。

## お稚児さん大募集!

平成28年5月15日親鸞聖人750回忌法要(10か月後)の御稚児さん大募集!参加費5千円。まだ先のことか、出足がイマイチ。ご協力下さい。

## ☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」260号をお届けします。◇戦後七十年の夏、先人の築いた平和と安穩の夏を「おかげさま」と感謝しつつ、子や孫の世代に「おかげさま」の心を伝える責任を思う。合掌

今年もお盆の季節が巡ってきました。初盆をお迎えになるお家は感慨もひととおでしょう。お盆は先立たれた人が私に残したメッセージを受け取る機会です。あなたは子や孫が人生の道に迷わないように大切な道しるべをきちんと伝えていきますか？坊守丈ヶチの愛を積むひと西にも書きましたが、ご先祖からの願いが込められた石積みの上は、現在の私達の安心できる生活があるのです。それに感謝しつつ私達も次世代の子供を育てましょう。岩国哲人さん（78歳元政治家）は新聞協会のエッセーに感動的な体験談を寄せました。戦時中父がなくなり大阪の家は空襲で焼失。母と島根に疎開して、小5の時から新聞配達と牛乳配達をしました。日本海の冷たい風が吹きつける村で40軒ほど配達しました。放課後は母と畑仕事の貧しい生活。新聞を購読する余裕は全く近所のおいじやんが読み終えた新聞を読ませてもらいました。おじいさんの死後もおばあさんは「てらん、勉強してえらい子になれよ」と励まして読ませてくれました。おばあさんの葬儀の日、隣の席のおいじやんが哲人、お前知ってるか？おばあさんはお前が来るのが嬉しくて、字が読めないのに新聞をとり続けてくれたのだよと、生前おれが言えず、それを聞いて涙が止まりませんでした。「人を育てる」とは、こういうことを言うのではないのでしょうか？他人の子も自分の子と同じように愛し育てていく。この善正寺だよりも読者の皆様の温かい励ましと支えがあるから、23年間も毎月欠かさず続けられるのです。今その有難さにやっと気付かせて頂き、ありがとうございました。御礼申しあげます。

平成二十七年八月 合掌

善正寺坊守様